三池炭労

発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町
電話3033番
炭電 528 475 番

編集発行人 平尾敏治
三鉱労組印刷工場

三鑛労組 紙 機關

整然と無期ストに突入

17社、水も洩らさぬ連繋

地方ブロックも 25日スト突入

地方ブロック代表者會議

思い上つた連盟の態度に痛撃を加えるべく炭労傘下大手筋十七社は水も洩らさぬ連撃の下十三、四両日の四十八時間ストに引續き十七日一番方から一齊に無期限ストに突入した総評のいわゆる総資本対総労働対決の闘いであり、講和後の労働運動即ち労使双方の實力と責任に於て解決を見るべき性格からして一歩も退けないところである。

國交既に十數回、六十余回に及ぶ交渉過程に於てさえ物價の上昇は蔽い難いものがあるにも拘らず、連盟は組合案に一顧も与えず、寧ろ賃金切下げ案で挑戦し、一方では軍需生産による莫大な利潤をひたかくしにかくしながら口に経營不振を說き、しかも従業員の生活は安定しているとうそぶくあたり、どうしてこれで正常な労使関係が望み得ようか？、また連盟は今次闘争を目して貯炭一掃ストだなどと强がりを放言しているが、三池炭鉱の第三、四半期業務計畫をみれば前期比約五万トンの増産を要請、高品位炭はむしろ需要増であると組合に協力を求めている實情もありこゝにも連盟の欺慢性が看取される。

いずれにせよ今度の闘争はこれまでのそれと著しく趣きを異にして居る。從前賃の切り上げ過程に於てストを打つたのが常例であつたのに今度は始めから突つ放された狀態で早くも深刻な事態に立至つている。しかも一資本、一企業というのではなく連盟對炭労が眞ッ正面から對峙した形に於てである。はつきりこれは階級闘争の段階に立至つた事を示している。絶對負けられない。負けたらするで戰前の惨めな労働條件が押しつけられるであろう。さればこそ中闘も今度は合議制ではなく多数決制を採り統制を强化してかゝつた。ストが永引けば色々切崩し工作も表面化して來よう。既に「幾らストを打つても無駄だ、三染が好い見本だから早く話合をつけるようにせねば…」と言つたような聲が何處からともなく流布されて來つゝある。たとえどのようにストが長期化しようとも窮極における勝利を確信し、お互いに勵まし合い戒め合つて今度こそ炭鑛の苛酷な囚人労働、歴史的な低賃金政策を打破すべく徹底闘争を闘い抜くのみである。

書記局便り

十月十八日　本部役員、中央委に於て決定
〃二十一日　拘留賃相談會会、小宮、北原、市役所前
　　傳崎監事長、西鉱運監事打合せ
　　厚生部、國交省視察
　　立合

二、ストライキ中の公休日取扱指示第七号（公休日もストを行うが保安要員には公休出勤取扱をせよ）を出す
三、出炭許可
1、常鑛―基準を定めて決定權を持つた中闘からなる調査団を派遣する調査団の構成四名
　中央執行部一、在京資本別一
　地方資本別一、職組一）
2、向洋、住友（（炭平）三菱（美唄）、明治（昭和）雄別（茂尻）以上五山からも文書或は電話で出炭許可申請があつている
　出炭許可については次期中闘で根本的な方針を決定するが当面緊急を要するものは戦術委員会に權限を委任して処理させる
四、地方闘争情勢
　地方ブロック代表を含めた戦術委員会を本日引續いて開催
五、その他
1、加盟申入　三井、小樽職組（組織加盟）
2、アメリカ炭労スト激励電報を打電する
3、弔慰決議
　常鑛湯本鉱では保安要員として勤務中殉職した保安係員二人の弔慰の方法
　欧年清氏に対して弔慰の方法をとる
4、電産との共闘
　緊密な連絡機関として連絡会議を設ける

廿日午前十時から中央執行部及び各地方ブロックの闘争委員長全員出席の下に会議を持つた。

各地方情勢報告

一、北海道Aブロック
1、団交では最終的回答は出ていない
2、十月二十二日以降スト指令は何時でも出せる
3、最終戦術は二十一日予定の団交終了後決定する
4、闘争の状態等を考え戦力の消耗には充分注意したい
北海道Bブロック
運盟に加盟していないので交渉が進展していない、早急にスト態勢を確立する
参加組合二七組合　七二五七名
二十日を「スト」目標に進めて居たが九州の情況を考え合せて二十五日以降に変更した
団交七回、小委員会四回、参加組合　二八組合、四一一〇名
三、山口
二十三日最後回答の予定
二十五日スト突入の準備指令を発令する
賃金経過処置について対立が明確になつたので参加組合（八組合一八七七名）討議の結果次の様な結論に達した
地方ブロックは二十五日各支部一齊ストに入る、しかしながら中央ブロックより先に妥結しない様に柔軟な戦術をとる
波の間隔は三日間とする
弱小炭鉱については考慮をはらう
四、午後二時より戦術委員会を持つて本日の地方ブロック代表者会議の結論を確認し決定した（中央指令第八号）を発令した）
今後の会議日程二十二日午前十時より賃金委員会
1、坑内外比の理論すり
2、助手手当の件
3、標作の件
二十二日午後一時より戦術委員会
二十三日午前十時第十九回中闘委員会

電産と緊密な連繋

闘う決意愈々固し第18回中闘委員會

十八日午後一時から第十八回中闘委員会をひらき
中央報告
一、生活費の事務折衝は十三日決裂、運盟は一方的に九六%仮払を行う旨を通告して来た
二、スト突入状況＝四八時間ストには脱落はない。無期限ストも堂々と突入した
三、運盟からは何らの働きかけなし
四、オルグ報告
　があつた後、臨事に入り
一、経過措置
1、運盟通告に対して不承知申入を行う
2、指令第八号（一方的措置に対する抗議と仮の受取りである）

責務の重大さを痛感

組合長　阿具根　登

総評を中心とした破防法の闘いは强引な吉田政府の數の暴力に依り押し切られたが其の潰まんは今次総選挙闘争に現れ、我等の支持する社会党左派を多数国会に送る事が出来ました。然し内部分裂の危機にあるとはいへ自由党に過半数の国会議席を取られ、之に対する日経連の態度は實に目に余るものがあり、遂に総資本対総労働の対決に発展破を追い込み、その突破口として、電産と共に起上つた炭労は、十七日以降無期限ストを断行、我が三池もその主軸として强固なる団結の下に無期限ストに突入の直前規約に依る総改選に依り映点多き不肖の身を七度目の組合長に選任され其の責任の重大さを痛感致して居ります。

総選挙に見る如くかつては戦争指導者であつた極右も日本の独立を期に擡頭し旧軍隊の復活を夢み暗闘も極めて活発となりつゝある時之等自由党、日経連、極右團の逆コース政策に対し飽く迄民主主義を守らんとする労働組合の責務は誠に重大であると確信致します。特に今次闘争は炭労の組織をかけた闘争であり執行部、組合員一丸となり闘ひ抜く事であると感致して居ります。不肖極めて非才でありますが断乎闘う決意を披れきして就任御挨拶と致します。

就任に當つて

監事長　梅崎寅之助

日本炭鉱労働者二十五万の意識再び監事長に信任を得ました事は不肖私と致しましてその職責の重大さを痛感すると共に、全力を挙げてその任務を遂行する覚悟であります。

かえり見ますと終戦後に於ける組合運動の擡頭が時代的要請の大潮コース政策に対し飽く迄民主主義を守らんとする労働組合の責務は誠に重大であると確信致します。特に今次闘争は炭労の組織をかけた闘争であり執行部、組合員一丸となり闘ひ抜く事であると感致して居ります。不肖極めて非才でありますが断乎闘う決意を披れきして就任御挨拶と致します。

組合運動の擡頭が時代的要請の大潮に推進せられ、今日の飛躍的組織の拡大を見た次第でありますが独立後に於ける組合運動の現狀は非常なる困難の伴う試練期に突入していると考えます。国際的、国内的、政治経済動向によつて誕生されている反動的傾向は、組合活動の凡ゆる部面に露骨に打出されて来ている事は否定出来ません。その暴風吹きすさぶ中に労働者の生活を守り、組織を護けての闘争は激烈なる賃金闘争の最中に組合は十分お解りのことゝ思います。

就任に當つて

議長　甲斐

総改選を行い、中央委員会の推薦決定により、三度決議機関の議長に選出されました。

吾々労働階級は常に労働者の生活安定の為には全力を擲げて闘わなければならない。三池では今回の衆議院選挙でも組合員、家族の団結があつたればこそ、吾々は勝利をおさめたのであるますが、また自由党の過半数の勢力もあり資本蓄積のための低賃金労働强化具体的には現行賃金ベースの切下げ、炭鉱の操作義務の引上げ等で、益々資本攻勢は激しくなるばかりお願い致します。

この現実を直視し、決議機関は執行機関と感情的に対立して論争する事なく、常に組合前進の為の批判であり論議でなければならないと固く信じて居ます。今度の闘争が從前のそれと異なる点は純然たる経済闘争からはつきり階級闘争に移行したという点であります即ち之は組合員一人々々の透徹した階級意識に基いて組織の総力を結集して当るのでなければ勝味がないという事を意味しております微力ながら満二年の間、決議機関の親め役として信任を受けて本期して既に火は点じられてゐる。たゞ解枝自身がまだそれを知らないだけである。戸田の遺児を背負つた目前にある解枝の姿に恒雄は念が迫るといふやうなものも、日頃恒雄にさへ洩らしてくれなかつた原因だつたか知れない。

その戸田の死は、故郷にある二つの幸福を無惨にも踏み倒してしまつた。恒雄は戦友の最期に泣いた。

恒雄はふと、戦場の戸田と寄こしてくれた数々のあの手紙の中の気持を、この厳しい出征の中に生かすのには、またその時節といふものが巡り来てゐない事を解枝の容姿に悲しく語つた。現実は余りにも厳しく、解枝は余りにも幼すぎた。

はげしくきらめく解枝の瞳の裏に戸田の姿否を問はうとするもののある事を知りながら、恒雄は故意にそれを避けた。無情な態度と思つたしかし、その苦痛と闘へがたいものが恒雄の心にあつた。といつて、一時的な嘘を語る勇気と

この現実を直視し、決議機関は執行機関と感情的に対立して論争する事なく、常に組合前進の為の批判であり論議でなければならないと固く信じて居ます。今度の闘争が從前のそれと異なる点は純然たる経済闘争からはつきり階級闘争に移行したという点であります即ち之は組合員一人々々の透徹した階級意識に基いて組織の総力を結集して当るのでなければ勝味がないという事を意味しております微力ながら満二年の間、決議機関の親め役として信任を受けて本期して既に火は点じられてゐる。たゞ解枝自身がまだそれを知らないだけである。戸田の遺児を背負つた目前にある解枝の姿に恒雄は念が迫るといふやうなものも、日頃恒雄にさへ洩らしてくれなかつた原因だつたか知れない。

その戸田の死は、故郷にある二つの幸福を無惨にも踏み倒してしまつた。恒雄は戦友の最期に泣いた。

恒雄はふと、戦場の戸田と寄こしてくれた数々のあの手紙の中の気持を、この厳しい出征の中に生かすのには、またその時節といふものが巡り来てゐない事を解枝の容姿に悲しく語つた。現実は余りにも厳しく、解枝は余りにも幼すぎた。

はげしくきらめく解枝の瞳の裏に戸田の姿否を問はうとするもののある事を知りながら、恒雄は故意にそれを避けた。無情な態度と思つたしかし、その苦痛と闘へがたいものが恒雄の心にあつた。といつて、一時的な嘘を語る勇気と

機関構成全く成る

三役の選出で緊迫した場面

第一回中央委員会

機関構成の中央委員会は十六日午後二時から四山講堂で開催、本部書記長に三川支部の申楚語氏を推し、吉田に移り議長、副議長には議長団の推薦経過報告があり、互選により議長に申楚語（三川）副議長田中眞男（宮浦）同加藤友一郎（港務）の三氏を選出、次いで組合長に三役の選出に入るや司会の島田氏から本部役員中より立候補する旨を述べ、阿具根前組合長「覚悟を新たに立候補します」と名乗りをあげたが他に立候補がないので委員側から推薦制を加えようと强い発言がなされ、飽くまでも立候補一本で行けと主張する側と激しい論議が交されたが、結局推薦制を認める認めないで採決の結果認める事に決、推薦候補に梅崎寅之助、菊川武光、宮川睦男、阿具根登、浦川守の諸氏が推されたものへ阿具根氏を除き全員辞退したので結局組合長は阿具根氏に決定、以下副組合長に宮川睦男、浦川守両氏、書記長菊川武光氏に夫々決定したが、三役の取決めが中央委員会によつて選出される以前、既に役員間で調整が取られていたという事に対しては相当强い批判の声が浴せられ、時に三川支部坪井委員「民主々義の基調は興論を尊重する事にある。それを無視する訳には行かない。須くガラス張りでやつて貰いたい。圏のは組合員なのだから今後もつと組合員の意志を尊重して取決めて貰いたい」と强く発言、監事長には梅崎寅之助氏を長に上田調整に努めつゝあり、今回々答し後、十月以降経過措置について次の通り提案した。

「経過措置を具体的に必要とする炭鉱では従来の協定に依る各個人別計算額の九〇%を仮払いとし、これが精算については新協定成立後行う」

一、本案は双方の意見の一致が得られればこれを経過措置として協定したい。支払額は統一交渉の立前から線を揃えたのである。

二、若し同意を得られねば已むを得ぬ事実問題の処理としてこの仮払を実施する。

三、その場合差当り仮払を必要とした炭鉱から必要に応じて実施

三、運盟がこの線を强行するならば九共闘の第七回団交は十七日ひら「得ない事を残念に思うが出来るだけ早く意意にそいたい」と述べた

90%假拂を表明

九共闘　本格賃金で押す

（上）沸騰する議場　発言するは三川支部坪井委員

（下）壇上で挨拶する本部新役員

支部

【宮浦】	
支部長	野方　實男
副支部長	原　登士男
総務部長	津留　深
労働部長	古賀　春吉
教宣部長	運尾信次郎
厚生部長	山田　益田　武利
【三川】	
	酒井　壽為
	前川　高之
	福島　進
	谷端　一信
	山崎　与一
	深草　由之
	浦野　勇明
【四山】	
	塚元　敦義
	灰原　茂雄
	中川　末義
	浦本　由男
	原田英太郎
【本所】	
	辻　辰美
	藤木　幸博
	倉門　朝吉
	小宮　勇介
	川畑昭二郎
	中原　勝喜
	木原　照夫　荒木　勝
【港務】	
	北原　一男
	石橋　進
【三作】	

本部

組合長	阿具根　登（宮浦）
副組合長	宮川　睦男（四山）
同	浦川　守（本所）
書記長	菊川　武光（三川）
書記次長（労働担当）	山下　二二（港務）
書記次長	中島　知英（本所）
（教宣担当）	
総務部長	島田　信一（製作）
労働部長	木村　正隆（四山）
厚生部長	平山　直義（港務）
調査部長	古賀　定（宮浦）
組織部長	藤木　勝敏（本所）
教宣部長	北岡　隆（三川）
調査部長	平島　敏治（製作）
政対部長	花園　憲一（宮浦）
財務長	坂本　清（三川）
監事長	梅崎寅之助（港務）
監事	上田　時男（四山）
同	竹原　達也（製作）

一時金賞與で全鉱も起つ

近く單一化も實現か？

全鉱は七日、大手五社共闘運絡会でうちだされた「秋季闘争への参加」を具体化したもので、要求の内容はつぎのとおり
【一時金】調査要求額七千円、最低基準五千円
【賞与】前期賞与を下回らぬ額を要求する
註＝①一時金と賞与はあくまで別の性格のものとして要求する
②指令權は各資本別がもつが、五社共闘運絡会議の決定に対しては各資本別は誠実に守る
闘争開始の時期は近日中にきめることになつているが、全鉱単一促進の動きがつよくなつているのと関連し、この単一化へのテストケースとしてもこの闘争の成行きは注目される。

96%假拂固執

經過措置折衝決裂

運盟よりの申入れにより十一月年後二時から経過措置に関する折衝が持たれたが、運盟は現協定の九八%仮払を固執してゆずらず、短時間で物別れとなつた。

經理は正確、誠實

公認經理士の監査報告

監査報告書

私は昭和弐拾七年度（自昭和弐拾七年四月壱日至昭和弐拾八年参月参拾壱日）業務期間の経理監査につき貴組合より依頼を受け昭和弐拾七年拾月六日、七日、八日の間に経理全般に関し中間監査を行ひました。

一、資料
監査に必要な一切の資料即ち各種帳簿並に証ひよう書類等一切の提出を得ました。

一、監査の経過
証ひようの監査を行ふとともに証ひようより伝票へ、伝票から各種帳簿への転記記帳後の計算の正否集計残高による試算表の作製を順を追つて監査しました

一、監査の結果
証ひよう書類の整理…領収証旅費計算書等は完全に整備されています又収入関係の証ひよう伝票の作製…伝票は整然と作られこの伝票には必ず裏付となる証ひよう書類が完備し作製上の誤謬は発見されません。
記帳計算…記帳は伝票より確実に転記され計算も正確に行はれております。
繰越金内訳…預金残高は通帳残高、帳簿残高、残高証明書残高が一致しますので正確であると考へます。現金残高は実地監査の結果帳簿残高と一致致しますので之又正確であると考へます。

監査人の意見
帳簿を通して見る組合経理の運営は正しく行はれているものと考へます。証ひよう関係は金額の大小を問はず入念に揃へてあり帳簿組織も復式記帳に改められ総てが正確誠実に運営されていることは経理担当者の責任感の深さを十分証明しております
監査人としてこの諸労働組合の経理監査を行つて来た経験から申し貴組合に於ては仮払金の精算が確実に行はれており不明朗な仮払金の無いことは誠に好希望として生きて行かうとしたの感を抱くものであります。尚今回の監査からは除外しましたが各支部の持つ共済会は生活資金の蓄積を始められた関係もあり取扱金額は飛躍的に増大するものと考へます。取扱金額の増大は誤謬、不正の行はれる比率をも又著しく多額にするものと考へ現狀のまゝの姿にて各支部が共済会の運営をなされるよりは適当な方法にて統合せられる機運ねて希望致すものであります。
右の通り監査の結果につき報告します。
昭和二十七年十月十二日
監査人　計理士　杉原　実
　　税理士　三池炭鉱労働組合個中

組合千一夜（第五十八話）

風去りしが（三）

出雲義雄作
久慈悠一畫

解枝の生涯が、このやうな惨酷な運命に導かれやうとは、恒雄に想像もつかない事であつた。彼女の運命の火焔には、八月十三日を期して既に火は点じられてゐる。たゞ解枝自身がまだそれを知らないだけである。戸田の遺児を背負つた目前にある解枝の姿に恒雄は念が迫るといふやうなものも、日頃恒雄にさへ洩らしてくれなかつた原因だつたか知れない。

その戸田の死は、故郷にある二つの幸福を無惨にも踏み倒してしまつた。恒雄は戦友の最期に泣いた。

恒雄はふと、戦場の戸田と寄こしてくれた数々のあの手紙の中の気持を、この厳しい出征の中に生かすのには、またその時節といふものが巡り来てゐない事を解枝の容姿に悲しく語つた。現実は余りにも厳しく、解枝は余りにも幼すぎた。

はげしくきらめく解枝の瞳の裏に戸田の姿否を問はうとするもののある事を知りながら、恒雄は故意にそれを避けた。無情な態度と思つたしかし、その苦痛と闘へがたいものが恒雄の心にあつた。といつて、一時的な嘘を語る勇気と

時の解枝は、戸田との生涯を断念し、戸田の遺書を一枚の部ルソンの海岸に置した駐屯地に在つた頃だつた。女の手であつたと書いてあつた。人目をはゞかつて辺り来たつたものではあつたものゝ、矢張り戸田にも父となれた喜びは隠し得ないものがあつた。傳聞の聞つた色々の言葉が、それからの戸田の口から出るやうになつた。

ふと行列の先頭が波を打つたかと思ふと、改札がはじまつたらしい。後から烈しく押して来る力に恒雄も小きざみに蹌踉て行つた。

（解枝はな）と思ふと、素早く恒雄の前に進入りとむと、振り向いてにつこり笑つた。

「今頃から、お出かけですか」

思ひ出したやうに恒雄は、声をかけた。

「柳河です。慌げ出されたもので、忙しい答だつた。それつきり声をかける機会は失なはれてしまつて突き出されるやうにして二人は綿いてサク内に入りこむと、いち早く電車の乗口に走り寄つたが烈しく電車の乗口に走り寄つたが烈しい乗客の圧迫に、二人は思はず離を作つてしまつた。

身動も出来ない中で、のびあがゝ、矢張り戸田の姿を探す。

「柳河」の文字が目に入つたとき、

「柳河」の文字が目に入つたとき、

当然山元に争議が起る。これを避ける為にも再考を望むと同時に本格賃金の交渉を進める事が必要である。